

9-3

ユニットケアとクックチルシステム

食から始まる介護事業

クックチルシステム

食事から始まる

特別養護老人ホーム ちょうふ花園

栄養科長 中村 高康

調布市下石原3-44-1

042-484-2002

E-mail kaen@tojinkai.or.jp

042-484-2286

URL <http://www.tojinkai.or.jp>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人桐仁会 ちょうふ花園は、今年で4年目を迎えるユニット型施設です。80名の入居者が8つにユニットに分かれ生活しています。その他ではデイサービス・介護予防事業・地域包括・居宅介護事業があります。

〈取り組んだ課題〉

- I・クックチルシステムの実施
- II・ソフト食の実施
- III・給食部門の改革

〈具体的な取り組み〉

- I・クックチルシステムの実施
 - ① クックチルシステムの講習会等への参加
 - ② ユニットケアの配膳方法の研究
 - ③ 調理サイクルの延長
- II・ソフト食の実施
 - ① 刻み食からソフト食への変換
 - ② ソフト食講習会の参加
 - ③ 試食会の実施
- III・給食部門の改革
 - ① 同業者の給食施設見学を受入
 - ② セントラルシステムの導入による合理化

〈活動の成果と評価〉

- I・クックチルシステムの実施
 - ① クックチルシステムの講習会に参加することで3年目を迎えた我々のクックチルシステムが再確認とともに確立された
 - ② ユニットケアの配膳方法を真空包装状態もしくはホテルパンから大皿盛りに変更することにより、家庭的な雰囲気が出せるようになった
 - ③ 調理サイクルの延長により（以前は3日前倒し調理、現在調理を含めた5日前倒し調理）人員の配置がより効率化された
- II・ソフト食の実施
 - ① 刻み食からソフト食へ変換することで、喫食率の向上が見られた
 - ② ソフト食の講習会等参加することで作り方の研究種類の幅が広がった
 - ③ 試食会の実施により、他部門との意見交換ができた
- III・給食部門の改革
 - ① 同業者の給食施設見学により栄養科職員の専門家意欲の向上が図れた
 - ② セントラルシステムの導入により食材の発注が効率的になり事務系の業務が低減できた

〈今後の課題〉

- I・ソフト食の種類を増やし嚥下困難者にも対応できる食欲を満たす食事の実施するため研究を続ける
- II・安全で栄養のある食事を実施して高齢者の低栄養状態を少しでも改善していくための研修
- III・配食サービスの実施